

サイショウ・エクスプレス(齋藤敦士社長、東京都江東区)は、創業70周年の節目を8月8日に迎える。老舗の3代目を担う齋藤社長(46)は「日本一健康で元気なプロドライバーを多



く持つ運送会社として、100年企業を目指していきたい」と話す。志向するのは「綺麗、健康、かつこい」と説明。世間一般が抱く運送会社のイメージを覆す様々な活動

サイショウエクスプレス社長 齋藤 敦士氏

綺麗・健康・かつこい

を繰り広げている。事務所やトラックは常に清潔に保たれ、2018年1月から「プロジェクト」を継続。は全車両での禁煙を断行した。

「健康面談を通じて抽出した共通の課題や悩みを踏まえ、取り組みを進めている。健康経営で得られた一番の成果は社員の大きな病気がなくなったこと。社員の健康管理をサポートする諸々の活動で大きな効果が出ている。

と捉える契機となり、10年近くにわたって「健康改善プロジェクト」を継続。「一日でも長く生き、会社を維持させることが母への恩返しになる」と思っている。

外見と内面のかつこよさも大切にしており、ドライバーが身にまとう作業服はデザイン性も追求。定期的な研修は、企業人としての所作を学ぶ機会となっている。

100年企業めざす

技術)機器を使いこなせるか否かを見極めるためにオンライン面接にしており、これを通過すると最終面接に進むことになる。



運送、倉庫事業を中心に展開しているが、「現在は運送の9割に対して、倉庫は1割の比率となっている。倉庫を2、3割まで持っていきたい」と、今後は倉庫事業の構成比を高める構想

を描く。

「表現が矛盾するように聞こえるかもしれないが、『走らない配送』を目指している」。運送事業は30分圏内の近距離配送で車両回転率を高める傍ら、倉庫を活用してスポットの保管需要を取り込む。それにより得た利益は給与や福利厚生など社員に還元していく方針だ。

「常に学ぶことが私の強みと認識している。新しいことを取り入れるイノベーターであると思う。一流の運送会社になりたい。日本で最もおしゃれでかつこい会社にする」。まずは年商4億円の達成を目指す。

(澤田顕嗣)